

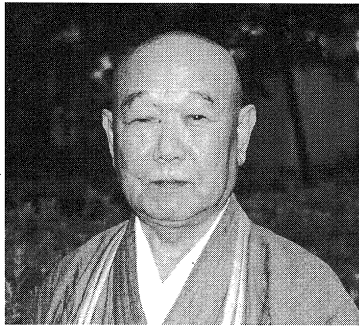
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

会長挨拶

横浜仏教会連合会
 会長 齊藤隆法

平素は何かと御高配を賜り、また格別なるご協力を戴き厚く御礼を申しあげます。会員の皆様にはお変わりもなくご法務にご精進のことと拝察し大慶に存じます。今年夏はほんとに暑い日の連



皆様にアピールできればこんなうれしいことはありません。これからも地道な活動を通して強い信念を持つて市仏連自治体は勿論のこと各地区会においても青少年の育成問題、また福祉の問題などこれからの私共仏教会に課せられた問題は大変にむずかしい状況などもあると存じますが地域事情に合わせて一歩一歩堅実な歩みを進めて行けたらと念じております。この会報がお手元へ届くの間に合うかどうかわかりませんが市仏では釈尊奉参会の共催にて十一月十六日から二泊三日の北陸方面への旅行を計画しました。チラシなどご参考にして多ぜいの方々のご参加をお待ちしております。どうぞこれからもいろいろと後半の市仏連行事などへの格段のご協力をお願い申しあげ皆様の健康と寺門の興隆をご祈念申し上げて粗辞ではございますがご挨拶といたします。 合掌

続でした。この原稿を書いている今日此頃はまだまだ残暑のきびしい日であります。市仏連としては本年も前半の行事をすませることが出来ました二月の涅槃会、六月の一日参拝バス旅行、各月に行う仏教会担当の具慰霊堂の奉仕、五月の具主催の慰霊祭、四月の各会で行う花祭り行事などそれぞれの各持場においてのご活躍ほんとに大変なことでご苦労なことです。有難うございました。このように各地域における市仏連の活動がハデではありませんがそれなりに市民の

具慰霊堂仕出当番表

平成12年1月5日(水)	南・港南区
平成12年4月5日(水)	神奈川区
平成12年6月5日(月)	西区
平成12年10月5日(木)	磯子区
平成12年11月6日(月)	港北区
平成13年1月(未定)	金沢区

平成十一年五月三十一日(月)に横浜市仏教連合会の第二十六回総会が、中区西有寺において開催された。

午後二時に玄野孝善副会長が開会を宣言。齊藤隆法会長の挨拶。議長に磯子区仏会長の鷲尾興勝師が選出された。議案審議を開始。林田眞成専務理事が平成十年度事業報告をし、橋下賢明会計担当が十年度の決算報告をした。会計監査報告が監査役の内野公雄師からなされ、次に意義なく出席者全員拍手で上程の件が承認された。次に会長任期満了に伴う新会長承認の件。選考委員長の都筑区仏会長の夏見邦生師から説明があり、二

第二十六回総会開催

回ほど選考委員会を開き、齊藤師より、現役職者が引き続き留任し協力してもらえらばという条件で内諾を得て、各位も残留を決定された」と経過報告を述べられた。満場一致で承認され、齊藤隆法新会長の二期目が開始した。平成十一年度事業計画案が林田専務理事より、十一年度予算案が橋下会計よりなされ、質疑応答がなされ、両議案が可決された。次に春の仏跡参拝(奥久慈七福神巡拝と袋田の滝)の参加者が百八十名ほどであると報告された。時局対策委員会報告が佐藤功岳委員長よりなされた。葬儀アンケートの出版、発送の活動。次に会則の一部変更。県仏青会長の森山一城福聚寺住職が県仏青活動を説明し、指導、支

援、協力を求めた。県仏青は四十五才までが七十名OBが八十名で構成されている。会報は年二回発行。内外救援をしている。難民のメンタル方面。緑の基金はカンボジア再建へ。神戸仏青に協力し神戸震災復興の一助にと願う実施。今年身延山参拝とピハハラ運動について行方。是非とも賛助会員になって下さいとお願ひされた。また、全国青少年教化協議会より、藤尾邦泰師(神奈川区青木町甚行寺)が来られて、ご理解を求められた。財団法人で読売新聞のバックアップがあり、六十八宗派が加盟している団体である。高僧

墨蹟展が来年十二年に横浜松坂屋で開催される。その時には市仏連も推薦名儀者になってほしい。引き続き林田専務理事より、一泊研修を実現したい。具慰霊堂奉仕の一月五日の件について。当番区は不平等になる。十五区仏では三年に一度である。齊藤会長が宗連にかけあつて、日にちを一月八日以降にするよう申し入れをする等の話しがあつた。釈尊奉参会の運営の件が話し合われた。理事会を開いて今後のあり方を検討する。午後三時十分川上敬吾副会長が閉会の言葉をのべた。このあと、懇親会に移った。西有寺様には、毎年このことながら、お世話になり感謝申し上げる次第である。

時局対策委員会報告

委員長 佐藤功岳

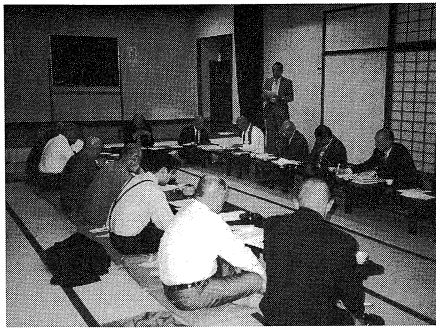
当、時局対策委員会は、前期の「葬儀に対するアンケート」の集計の中で、会員の中から要望のあった点を具体化していく方針であります。

尚、アンケート集計による結果は、横浜市仏教連合会総会にてご承認いただきました。

具現化に当り、七月三十日・九月十三日と二回の委員会を重ね、平成十二年二月頃を目標として、市仏連と葬祭業者とのテーブルを設定する予定でございます。

このテーブルでは、左記にあげる点を中心に討議する予定しておりますが、会員各聖に於かれましては掲載事項以外にご意見・検討事項がございましたら、当委員会まで一報下さい。

一、日程の決定は先ず寺と相談



二、菩提寺がある時は、安易に他寺の紹介をおこなわない。
三、最初に菩提寺へ連絡をしたか確認する。
四、土・日の葬儀は極力避けるようなアドバイスをする。

五、必ず「葬儀」という名称を使用し「告別式」は必要の有無を問う。
私共、仏教界は非営利事業と考えており、営利追及の葬祭業とは基本的に立場が異なっております。

運営や事業展開に於ても両者は格段の相違があり、顕著に表われております。
仏教界は、一人ひとりの心、魂との継がりを通じて、理想の世界・仏国土を築き上げることにあります。従って現実を超えた点に重点があると考えます。

しかし、営利業界の現実への努力は私共の想像を超越しております。この近年には、労働者に働きかけて「葬祭ディレクター制度」を認可させました。しかし、このように一致団結して運動をしていくことを私共で鑑みますれば、疑問が生じて参ります。

話は変わりますが、神奈川県仏教青年会は県葬連との交流があり、端緒は県仏青発会直後にもなりました。こうした長年の交流にもかかわらず

「葬祭ディレクター制度」創設は極秘裡に進められ、何の相談もありませんでした。
このディレクター制度が私共の考えと同視点で運営されていれば問題は生じないと思いますが、恐らく異なるであろうと考えられます。

こうした中には、非常に危険な部分も内包していると考えております。宗教に関する部分が大事であるにもかかわらず、我仏教界へは、申請のわずか一ヶ月前の通知だけでした。検討するには時間が少なすぎました。

話しは戻りますが、私共仏教界は新たな制度をも国家機関に認定させるような努力を、はたして行つて来たことがあるのでしょうか。努力度、連帯度からいえば、雲泥の差があると言わざるを得ません。私たちが、現実社会への具体的なメッセージを発信すべき時となつたのではないのでしょうか。

この葬儀の件に関しても、仏教界が明確に方向性を示し、実際に運動することにより、壇信徒に与える安心は、はかり知れないものとなるでしょう。
この葬儀の問題が、私たちが真剣に社会に取り組んでいくことのスタートとしたらどうでしょうか。そのためには、本会会員の結果が先ず第一でしょう。

しかし、本会の中でもそれぞれの事情があると存じます。数千軒にも及ぶ檀家を有している寺院では、納所や院代さんが葬儀を行い住職はその機会が少なく、どうしても現場の状況が把握できなくなつてしまつていくようです。

その上、そうした住職は公職も多く、今回提案させていただいたような運動を実際に参加、推進していくには時間的にも困難かと存じます。
しかし、このような方は、今回の問題に理解をお示しいただき、貴名を前面にいただくことも、運動の一つの大事な方法でもあります。

孤高の人と祭り上げられ、私共が真剣に拝読するお経が葬儀のBGM化しないためにも、是非会員各聖の一致団結したご協力をお願いいたします。

平成10年度事業報告

イ、主催行事

- 1、定期総会(第25回) 5・29
- 2、三役会(三回開催)
- 3、常務理事会(二回開催)
- 4、理事会(二回開催)
- 5、会計監査の実施(一回)
- 6、涅槃会の開催(於大林寺)
- 7、記念講演(いまに哲夫氏)
- 8、市仏連会報の発行(47・48)
- 9、市仏連発信(十三回)
- 10、各支部活動助成協力
- 11、県仏教会との相互連絡
- 12、祝電、弔電打電(九回)
- 13、仏跡参拝旅行(恵林寺)

ロ、参加行事

- 1、市釈尊奉参会行事参加協力
- 2、奉讃会旅行(広島・山口)
- 3、県仏改会行事に参加協力

- 4、会員主催行事に参加協力
- 5、県宗教連盟活動に参加協力
- 6、県慰霊堂奉仕活動の実施
- 10・6・5 保土ヶ谷旭区仏
- 10・10・5 鶴見区仏
- 10・11・5 戸塚区仏
- 11・1・5 栄区仏
- 11・4・5 泉区仏

ハ、時局対策委員会事業

- 「葬儀等のアンケート集計」
- 鶴見区 宗泉寺 横井久運
神奈川区 本覚寺 守長尚文
西区 東福寺 増田大祐
南・港南区 興禅寺 市川智彬
保土ヶ谷・旭区 三仏寺 吉川瑞浩
磯子区 大聖院 鷺尾興勝
金沢区 慶珊寺 佐伯隆定
港北区 東照寺 程木徳明
都筑区 宗忠寺 夏見邦夫
緑・青葉区 弘聖寺 内野公雄
戸塚区 福泉寺 岩波道俊
瀬谷区 最勝寺 柳沢柳丸
泉区 宝心寺 丸地良信
栄区 大誓寺 塩沢栄一

各区仏会長 (11・9・1現在)

規則一部変更

区仏増加により、会則第6条の常務理事14名が15名と改められた。これを受けて、第18条に「平成11年5月31日規則一部変更」を付加し、同日より施行となった。

第二十五回涅槃会

来春二月に予定されている第25回涅槃会は、保土ヶ谷・旭区の担当で、準備が進められている。

横浜市市仏教連合会平成10年度取支計算書

取入金額 2,974,623円
支出引額 1,871,074円
繰越金 1,103,529円
(自平成10年4月1日 至平成11年3月31日)

Table with columns: 科 目, 予 算 額, 決 算 額, 増 減 △. Rows include ①会費取入, 1. 会 費, ②雑入金, ③過年度取入金, ④前年度繰越金, and 取入合計.

横浜市市仏教連合会平成11年度歳入歳出予算書(案)

歳入金額 2,871,529円
歳出引額 2,871,529円
繰越金 0円
(自平成11年4月1日 至平成12年3月31日)

Table with columns: 科 目, 予 算 額, 前年度予算額, 差引増減 △. Rows include ①会費取入, 1. 会 費, ②雑入金, ③過年度取入金, ④前年度繰越金, and 合 計.

Table with columns: 科 目, 予 算 額, 決 算 額, 増 減 △. Rows include ①総務費, ②高要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費, and 合 計.

次年度繰越金 1,163,529円
平成11年5月31日

上記のとり取支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 斎藤茂生

会計 橋下賢明

監査の結果相違ない事と認めます
平成11年5月15日

監査 竹沢隆幸

Table with columns: 科 目, 予 算 額, 前年度予算額, 差引増減 △. Rows include ①総務費, ②高要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費, and 合 計.

平成11年5月31日

上記のとり歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 斎藤茂生

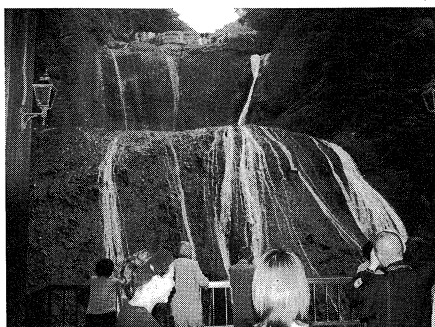
会計 橋下賢明

監査 竹沢隆幸

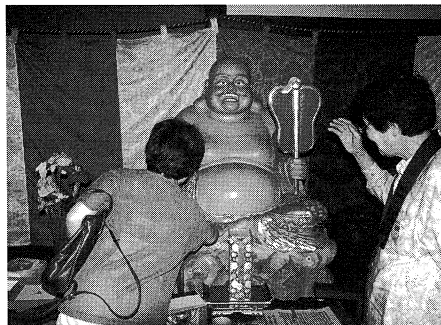
第十六回春の仏跡参拝記

奥久慈七福神 袋田滝方面

平成十一年六月十七日(木)に市仏連と釈尊奉讃会共催の団参加行された。当日は曇、空梅雨で真夏日が続いたので雨が欲しいところであるが、今日だけは降らないでと手前勝手に願ひ参加したので一八四名である。横浜の大黒サービスエリアにて七時半に集合、バス四台を列ねて七時五十分にて茨城県奥久慈の七福神巡りに出発した。常磐道の那珂インターチェンジで国道一一八号線を北上した。沿道の景色は水田の青田が広がり、処々に陸稲(おかほ)の畑作がみられた。栗の花盛りで強烈な臭いである。久慈茶、蒟蒻、大蒜、葉たばこの産地である。JR水郡線と久慈川がつかず離れずに平行して走り流れている。バスの前に水辺の鳥のセキレイが歓迎するかのよう



糸を垂れ、岸に小舟が二艘舫う。山の中で何んにも無い所だと、大子(だいご)出身の人が言ったのを思いだし、思えば遠くへ来たもんだというセリフをつぶやく。午前十時五十分長福寺に着。長福寺は久慈郡大子町頃藤に在る曹洞宗別格地の東勝山で、本尊に十一面観世音像を祀る水郡線沿線の第一の巨刹である。寺の創建は長元二年(一〇二九)で律宗、文明元年(一四七〇)に大通詮甫老師が入寺し曹洞宗となり、その後、現在地に移転した。すばらしく大きい山門前で集合写真を撮る。鶯(うぐいす)が鳴き、軽トラックの上に脚立を載せて、中年夫婦が梅の実を探っている。掲示板に「この試練を越えよう、これを越えよう」とあった新しい自己が見出されよう」とある。本堂に上がり、全員で般若心経を唱え、ご法楽を申した。齊藤隆法市仏連会長が挨拶をされた。「一期一会の中で集い、和顔愛語で相互を思いやり、衆(しゆ)等の別遣を大きな輪の中に納めて、行動する当市仏連と釈尊奉讃会に誇りを持ち、これからも礼拝、祈念の宗教心を忘れずに協力と参加を願ひます」。程木徳明奉讃会事務局長の報告のあと、長福寺住職の鈴木宗章師の御話を拝聴した。「菩提心・仏心にもようされて願ひをおこす。さとりが、さとりをよる



こぶころをおこすということ、自分がやすらぎの世界に渡る前に、すべての人々にやすらぎのせかいにいつてほしいという願ひをおこし実践することです。たとえ在家信者であっても、たとえ出家の僧侶であっても、あるいは天上界の境遇であっても、苦悩の境遇であっても、楽しみの境遇であっても、早く、自分を後にして人さまの喜びを先にする仏の心をはたらかせるべきです。また、「一切衆生悉有仏性」草木国土悉皆成仏の釈迦のお悟り、「生死は仏の御命なり」の道元禪師のお示しを深心に刻み広く呼びかける責任があります。富士山に登って初めてこ来光を拝んだ人は、みんな深い何かを感じ、早朝の海や川を見た人も、山を赤く染める夕焼けをみた人も、厳かな命や気を感じるもので

す。つまり私たちは山や川ともエネルギーを交換し合っているのです。自我傲慢の人間が、仏性の六根を腐らせ、飢えた亡者になっている。み仏の教えを私達、共に心一つにして行持致しましょう」。奥久慈七福神霊場は昭和六十一年の夏に村おこし事業として誕生した。この特色は一三〇cm×一五〇cmの等身大以上の量感のある一本造り極彩色の御仏体と、三〇cmほどの雛型の前立ちとが一組となり新設されたこと云われる。全長五〇kmで自家用車利用で四時間半から五時間かかるそうだ。長福寺は立派な本堂内左手に寿老人を祀る。数ヶ月前に遷化された前任の鈴木輪堂師の遺徳掛軸「発心修証 八十九年 東勝醒 風月無辺」が一本、吊るされている。堂の外へ出てみると鶯(もや)が四方の山々にかかっている。住職の好意で無料でシヨウブ園に入れた。1.2ヘクタールの園内に三十万株の花菖蒲が咲くという名所である。丁度その手入れの時期に住職の遷化や晋山などがあり、今年はお人様に見せるほどの作になっていないと寺側で言われた。しかし三段の花田にハナシヨウブが咲き、美しい景色を楽しませて貰った。陽射し強く暑かった。

十二時三十分頃、袋田の滝の手前の鮎屋で昼食。卓上火置きを使った料理で食堂内は蒸し風呂状態。早々に食事を済ませ、滝見に出発。一時半頃に滝見物。中腹の観瀑所へ行くためのトンネルに入った途端の涼しき、冷寒は、喉元過ぎれば暑さ忘れの例えを実感した。袋田の滝は久慈川の支流に在り、中七十三m、高さ百二十m、四段に落下する。日本三大名瀑の一つであり、四季それぞれに織りなす滝の造形は感動を与え、特に冬の凍結美、氷の袋田の滝はテレビニュースで必ず放映され有名である。今年はお水で、岸壁見物のお粗末の恐れもあるとバス車中での声。水量は満水時の十分の一。五筋の流れであったが、見事な滝の評価は変わらず、何故か堪能した。来て良かった。帰路は吊り橋を渡った。太古の地殻変動や地震などのせいかわからないが、昔むした大岩がゴロンと転がったのが重なり合って、滝壺から下流に不揃いに横たわる。その川で河鹿(かじか)が鳴いていた。袋田の滝から五分十分ほどで龍泰院に到る。二十十分に参拝、動行。雨が降り風も出てきた。大子(だいご)町袋田の龍泰院は熊野山と号し、曹洞宗である。本尊



は釈迦如来像で前身は明応七年(一四九八)創立の山伏住持の修驗寺で、天文二年(一五三三)に佐竹氏によって再建された。禪寺開山は足利長林寺五世の天山正繁禪師である。袋田滝の不動堂は当山境外仏堂である。現在の大本堂は二



二三年前の江戸時代の安永五年(一七七六)に建てられた。天井に龍の絵が描かれ、雨を降らせるというこゝで雨乞いの信仰がある。今日も日が射していたのに奇しくも此処では雨催いとなった。西山荘に來られた水戸の黄門様もしばしば界限を視察され、当院へも立ち寄り、正面に望まれる月居山の月居(つきおれ)観音も信仰された。諸国漫遊の旅は實際になさるなかつたが助さん、格さんは実在の人物であるようだ。龍袋院は布袋尊を祀る。布袋尊は中国の契此和尚がモデルで、大きな腹で袋を背負い、左内輪で足を崩した姿の像である。嫌なことは顔に出る。顔はニコニコ、お腹に全部貯める。中国では太人(たいじん)の裕福で丈夫が理想像で、瘦せっぱちは生活不安定と見なされ信用されにくい。弥勒大仏を布袋尊で現す国柄。若い住職たちが丁寧話をされ、奥様も懇切にお茶と梅干しを用意

され、書院では壇家さんが二十名余り、梅花流のご詠歌を練習されていた。残念なのは書院裏に、熊谷草・いかり草・うらしま草・かたくり・トネボ草などが自生している。ト葉にあったのに見逸したことである。

二時四十八分に龍泰院をあとにして、友部インターで四時五分から四時三十分までトイレ休憩。夜六時三十分まで大黒埠頭で四台のバス散車し、自宅へは大体八時頃戻ったのではなからうか。バスガイドさんの博識と語りには感心した。お蔭様で楽しく有意義な仏跡参拝も無事に終えることができた。「ありがとうございました。良かったです。またお願いします。良か今度は何処ですか」と声をかけて家路に向う会員の笑顔に、主催者一同も充足を覚えた。

東泉寺(関水俊道師) 二一名。西福寺(備前恭忍師) 一二名。妙光寺(秋山智謙師) 一名。長昌寺(安野孝善師) 五名。正観寺四名。



福聚院(齊藤隆法師)・西方寺四名。東照寺(程木徳明師)五名。金蔵寺一名。西量寺三名。常真寺(安藤師)一名。観音寺一名。円光寺一名。松蔭寺(川上敬吾師)

六名。見光寺(林田眞成師)三名。宗泉寺(横井久運師)八名。宗忠寺七名。大誓寺一名。大円寺(佐藤功岳師)二名。大善寺(石川成弘師)四六名。

話 材 紹 介

生命(いのち)を
いただけ

属性……と、あるように肉体的、生物体としての命を指す。②の寿命は、命の存続期間である。一方、③の内容は、精神的な意味を含んだもので、「命をかけて……」などと使われるニュアンスが含まれている。生命がかげがえのない唯一の大切なものである。で、拡張した意味で肉体をも超越した心の領域を含んでの解釈と言えよう。この意味では、「生物体としての生命・命」と区別して「いのち」と平仮名で表記される場合が多いようである。一方で、生物体としての命を「イノチ」と片仮名で記されることもあるようである。

「衣食足りて礼節を知る」という言葉があるが、戦後五十年を過ぎた現在の日本は飽食暖衣の時代を迎え、金融の危機、経済不況が長期化している世情にも拘らず、衣食を大切にすることに無関心で、礼節は薄くなる一方の実情である。「衣食余つて礼節を捨てたる」こんな日本になつてしまつた。

一九〇〇年代も残すところわずかな日々となつた今こそ、新しい時代への警鐘として仏教的な生活倫理を正していく使命感が我々にはあるのではなからうか。そんな見地から今回は、食するということ、つまり生命(いのち)をいただくことについて取り上げた。

生命の定義

生命・命の定義は様々である。一般辞書によれば、命、生命、寿命は同義とされているが、「命」の中には、①生命の意、②寿命の意、③大切なものの意に分けて説明している。①は(せいめい)と読みだ方が適当かも知れないが、『広辞苑』によれば、生物が生物として存在し得るゆえんの本源的

る。『具舍論』によれば、寿は變(なん)と識を結びつけ維持する力を持つとされる。つまり生物体としての暖(体温)と精神体としての識を合成したところに寿としての命があるとされる。

中国のある論書では、「命者を寿者として生きることを寿命という」と解釈されているが、与えられている限りある命を仏の生き方として充実して全うすることは、喜ぶべき事(ことぶき)と考えることができよう。

法語集より(抜粋)
◎真言宗吉野孟彦師の法話より
「いただきます」の言葉の中には、食材を作り調理をしてくれた人達のご苦労に対すること。動物や植物のそのものの命をいいたくこと。特に私たちは、他の生物の命を奪わない限り生きてはいけません。ライオンは満腹のときは必要以上には殺生をしないのことです。ほかの生物のお世話になつてるのは植物だけではありません。ランドセルなど皮製品は牛や馬の生命そのものです。衣類や家具や建物も木やノートのほかの生き物の生命を奪つて使っています。せっかくの生命でつくりましたものですから「もつたいない」と言える世の中にしなければ奪つた生き物の生命に申し分けなことがになります。

◎永六輔著『学校ごっこ』より
「給食」命を大切に時間
要旨 ある学校を訪ねて給食を共にした時、給食の始まりの合図に笛を鳴らした。他のクラスでは太

鼓もあるという。担任の先生の話では教育委員から手を合わせたりする宗教行為はやってはいけないと言われているとのこと。

本文「いただきます」ということばは略されています。本文の文章は「あなたの命を私の命にさせていただきます」です。今まで生きていた食べ物と命を私の命にさせていただきます。というのには礼儀として正しいことです。これは食べ物に対する感謝の心を表しているのです。「ごちそうさま」の馳走というのは馳せる、走ると書く通り、この食べ物にかかわった全ての人に本当にありがとう、という意味の言葉です。「いただきます」というのは命をいただくことだ、ありがとう、...そう思ったら残さないでしっかり食べるでしょう。食べるという行為に対して「あなたの命を私の命にさせていただきます」という思いがある子は、やはり相手の立場のことを考えますよ。

◎青山俊董師『典座教訓』に学ぶ
—愛を着せ愛を食べさせる—
「いわゆる老心とは父母の心なり」「自らの熱きを顧みず、子を蔭い子を覆う」と道元禪師は示される。老心とは老婆親切の心。つまり自分の暑いことを忘れて子の緑陰となり、自分の寒いことを忘れて子を寒さから守ろうとする。その切なる親心が、人間らしい人間を育てるのである。

PTAなどの講演の席上で、私はよく親御さん方をお願いする。「ただ着せればよい、ただ食べさ

せればよいというものではありません。愛を着せ、愛を食べさせる。祈りを着せ、祈りを食べさせてやってくください。」

◎阿部野龍正師
『詩篇生かせいのち』より
聖なるいのち

いま

食べている

野菜

その野菜には

いのちがあった

* * *

いま

食べている

魚

その魚にも

寄稿法話

毎日暑い日が続きうんざりしてしまいました。ようやく秋の気配が出て、夜になると虫たちがいい音色を出してわたしたちを和ませてくれます。自治会ではいつもお世話になり厚く御礼を申し上げます。

さて、今回は生命(いのち)をいたたくと題して一筆書きました。みなさまがたの生命をいたたくわけではありません。どうぞご安心ください。実はお食事のおはなしです。
わたしが、本場で修行のときは、食事の前に必ず「五観の偈」というお経をお唱えしてからいただきます。今日はその一つをご紹介します。一つには功り多少を計り、彼

いのちがあった
米に
パンに
肉に豆腐に
そのみんなに
いのちがあった
その尊いいのちを
食(は)んで生かされている
このいのち
* * *
このいのちこそ
宇宙のすべてを
宿している
聖なるいのちである
生かし生かし
生かしぬかねばならぬ
聖なるいのちである

市仏連副会長 玄野孝善

の来処を量る」
これは、「この食物は、数多くの人々の労苦のおかげであり、また天地自然界の恩恵であることを肝に銘じ感謝しましょう」と言う意味です。

恩恵の「恩」は「因」に「心」と書きます。すなわち何事も、寄つて来る因(根源)に心を向けてこそ、その恩がわかり感謝の念が起きます。例えば、お米だけを考えてみても、田んぼに種もみをまいてから収穫し、さらに食膳に、上るまでには、少なくとも一五〇日もの日数がかかります。その間、農家のかたをはじめ幾多の人々の手数と労苦をへているのです。さらには、太陽、気温、水、土、肥料、除草、消毒などすべて

が過不足なく、適度でなければ決してお米は稔りません。



また、鎌や鍬などの農具も必要です。これらを作る人もいなければ農業はできません。さらには、脱穀機や精米機も必要です。米袋を作った人、その袋にする素材を提供する人もいます。それに米を洗う鍋や炊飯器を作った人、それを運ぶ人、さらに売る人、ご飯を炊く燃料を調達した人、炊くときの水や水道管、その水道管を作った人、また水道屋さん、食べるための食器類や箸などを作ってくれた人、テーブルからヤカン、ポットに至るまでまだまだいくらでもあります。

ざっとこれだけ見ても莫大な人達、この一粒のご飯にたずさわっているのです。そうした多くの人々の力や天地自然界の恵み、それらのどれひとつが欠けてもご飯はいただけないのです。
このいちわん、吾をささうる無数の手 見ゆるがごとし いただきて食う
また、いかに科学や機械が発達しても太陽、空気、水、野菜、魚、肉などの生命あるものは、生産できません。こうしてよく考えてみ

ますと、さまざまなおかげと支えによつて一粒のお米、ご飯がいただけるのです。ですからご飯や食物を粗末にすることは絶対にゆるされませんし、感謝せずにはいただけません。

箸とらば、天地自然の恩を知れ われ一力で 食うと思ふな 食事の時に「いただきます」という挨拶は、お魚やお肉そしてお野菜などの「生命(いのち)」をいただくという意味で「生命」を略した挨拶なのです。わたしたちは、数多くの生命を犠牲にして、いただくことによつて「生かせてもらっています。」それをよく認識して食事をいただくようにしましょう。

こうして、数限り無い多くの恵みに心をかたむけること、それが本當の知恵であります。知恵とは「恵みを知る」と書きます。
生かされて 生くるや今日のこのいのち 天地(あめつち)の思い、かぎりなき恩 (自治会機関紙への投稿より)

●五観の偈解説

僧侶が食事の時に起こすべき五つの観念。

- (1)食物を得る辛苦および施主の恩
- (2)自己にこの食物を受ける徳があるかどうか
- (3)つつしんで多く食らないうこと
- (4)飢渴をいやす良薬であること
- (5)道を修めようとするための食物であること

—中村元著『仏教話大辞典』

支部だより

都筑区

平成十一年一月三十一日、役員会開催（宗忠寺に於いて）
 総会日程、花まつり、役員改選、涅槃会、の議題にて行う。
 花まつりについては、現在各寺院ごとに法要を中心として行われているが、檀信徒の関心が今一つ不足で減少の傾向が見られる反面十二月二十五日、クリスマスが国民的行事として受け入れられている面もあり、特に若い人達は年末の一大イベントとしている事を考えると、お釈迦様の誕生なくしては有り得ぬ仏教徒にとって四月八日知られていないと云う事を、考えなければならぬ。

都筑区は、誕生して今年で五年の若い区です。
 計画的な都市作りで知られ、港北ニュータウンとも呼ばれている。川崎と隣接する横浜の北部に位置する地域です。
 区仏も新しく活発にしてゆきたいとの思いで活動しています。その内の事例を二つほど紹介させていただきます。

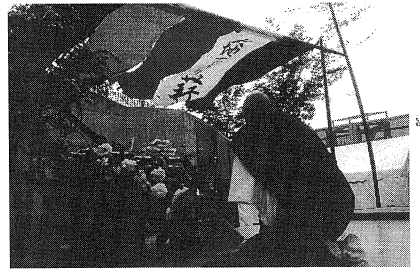
一つは四月のお花祭りに参加者全員黒依で市営地下鉄の駅前で甘茶、お花の種などを無料で配布しました。その時に大人の方は「甘茶も灸しぶりですね」とか、子供さんの中には「お花祭って何なの？」等々いろいろな意味で、釈尊の誕生日をアピールすることが出来ました。



（前号に掲載できなかった分）
 真宗大谷派真照寺雲井上人が十二月にご遷化された。（行年八十七歳）心よりお悔み申し上げます。

第四回「うきの新能」祈り式

於スキップ広場



以上の二点の事例は、一般の人々との接点があり、開かれた親しみのある区仏でありたいとの思いでの活動です。
 永田英司記

金沢区

○新役員選出

五月二十二日の区仏総会で、新役員を次の如く選出した。
 会長 佐伯隆定 慶珊寺住職
 副会長 高岡恵吾 染王寺住職
 会計 丸山石哉 泥牛庵住職
 区奉讃会事務局長 和田大雅 龍華寺住職

○六月十七日 房総日帰りの旅

金沢区仏及び金沢区釈尊奉讃会共催の春の日帰り旅行は、総勢一九名の参加を得て、南房の古刹とシエイクスピアカントリーパークを巡り、好評であった。

○仏教文化講演会

八月三十日（日）午後六時より、金沢公会堂にて恒例の講演会を開催した。本年の講師は次の通りである。
 中性に於ける庶民の生活

元鎌倉国宝館長三浦勝男氏
 弘法大師―満濃の地修築
 講談師神田すみれ師匠

瀬谷区

瀬谷の八福神各寺を順番に紹介させていただいております。
 今回は弁財天の寶藏寺を紹介致します。毘沙門天の徳善寺から南に七百メートル、交通の要所厚木街道際に面し、毎年恒例行事になっている春の仏跡参拝バス旅行の参加者集合及、乗降場所として、青木御住職のご好意によつて境内の駐車場を臨時にお借りしてあります。

- る。
- 保土ヶ谷・旭区
- 年間行事
- 四月 花まつり、総会
 - 五月 春の仏跡参拝
 - 十月 秋の仏跡参拝
 - 十二月 成道会、托鉢保土ヶ谷・天王町・二俣川
 - 一月 新年会
 - 随時 役員会（三〜四回）

寶藏寺は高野山古義真言宗で、本尊は不動尊。治暦二年秀惠比丘尼が不動堂を建立し開基。開山は十四世空元法印。江戸時代末印の寺領、後朱印地を賜る。一六〇一年に没した瀬谷知行、旗本後藤左渡守金弥行明の碑もある。本堂の周囲には、泰山木や辛夷、黄楊、公孫樹等の古木が繁り、よく整備された境内は大変すがすがしさを感ずる。弁財天の御堂は本堂の真正面にあって本堂と向い合っている。弁財天は八福神中唯一紅一点インド神話で河川の女神。日本では財福の神として信仰されている。鎌倉時代に琵琶を弾く妙麗な女性の姿で表わされた。因に弁財天にお参りする時は、カッパルで行ってはいけないという俗信があるそうです。

毎年度の初めに事業計画を立てスタートをするわけであるが、それらが予定通りに実施されることは、当然のことであるが実は、誠に尊く有難いこととせねばなりません。さて、釈尊降誕会「花まつり」が、四月五日、保土ヶ谷区今井町真言宗金剛寺様を会場に開催された。徳恩寺ご住職鹿野融照師を講師にお迎えし、菩薩道とボランティア活動を中心とされたご講演であった。実際のご体験によるお話だけに、約二百名の参加者に深い感動を与えた。

五月二十日、定期総会開催。諸議案につき、各々審議検討し、承認可決された。

五月二十四日、春の仏跡参拝は、小雨模様ではあったが、板東靈場の正法寺、安楽寺等を巡拝、和合のうちに有意義な春の一日となった。当日は参加者一三五名、参加寺院十二ヶ寺であった。

六月二十二日、畠山重忠公慰霊祭に出仕、鎌倉武士重忠公の遺徳をしのんだ。旭区鶴ヶ峰本町、葉王寺にて実施された。

九月六日、役員会が随流院を会

処に開催された。秋の仏跡参拝、成道会、歳末鉢募金、更に、横浜市仏連涅槃会の担当地区としての準備等について審議がなされた。計画されたことが予定通りに円成することを念じつつ報告を終ります。

緑・青葉区

緑・青葉区連合仏教会では、現在寺院名鑑の作成を進めています。昭和六十年には、会員皆様ご尽力のもと緑区仏教会寺院名鑑が発行されました。以来、平成六年に分区が行われ、仏教会も都筑区と緑・青葉区連合として発足、現在に至っています。

寺院名鑑昭和六十年版版は、本尊・創建・沿革・寺宝を網羅した内容。区内に所在する旧小机領観音霊場・武相薬師霊場・武相観音霊場・武相不動霊場の各名簿も掲載されています。特に、六十七ヶ寺のご住職の顔写真には懐かしい想いがいたします。

このたびの発行も前版の内容に習い、現在の寺院の姿を映すとともに、これを機に会員相互尚一層の親睦・協調がはかれますようお願いしております。

計 報

吉水法雄師、元戸塚区仏会長。
平成11年6月23日遷化。77才。
安達宏識師、元保土ヶ谷・旭区仏会長。平成11年8月19日日本葬儀執行。

釈尊奉讃会よりのご案内

秋の参拝旅行

「曹洞宗大本山永平寺・真言宗名刹那谷寺(なたでら)・白川郷・高山の明善寺、千光寺への巡拝」皆様お元気で過ごさしめ、日頃は当会の行事にご協力頂きまして厚く御礼申し上げます。さて今回は北陸から白山、白川の合掌の郷、さらには高山と、新雪に覆われるこの地方の美しい風景と歴史を心ゆくまで味わえる旅となるでしょう。高山は標高五七三mの飛騨一の山岳都市で、京都を模し、家のかまや神社仏閣等、すばらしいものを見ることが出来ます。どうぞ皆様お誘い合せて、是非ご参加頂きますようご案内申し上げます。

記

平成十一年十一月十六日(火) 十八日(木)。バス旅行。会費・五八〇〇円。



編集後記

▲齊藤隆法師が会長に推薦され、総会で承認され、二期目がスタートした。一期の市仏連諸役も留任するとう条件だった。編集子も相変らずとなった。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

▲前戸塚区仏会長で、浄土宗名刹の西蓮寺住職吉水法雄師が、六月下旬にご遷化された。当会報の愛読者かつ批評家であった。寄稿も必ずされた。そして、起承転結を踏まえて書きなさいと常に叱咤激励を賜ったことが有り難く思い出される。感謝、追憶供養、合掌。

▲自然災害の中に人災が混合して取り返しのつかない事故が相次いだ。トルコや台湾の建物の手抜き工事、神奈川の山北の玄倉川のトドア強行等がそれである。心より悔みを申し上げ冥福を念じ申し上げる。また茨城県東海村のJCO核燃料工場での臨海事故は、無知無明の人命無視、環境汚染破壊の政・官・民の無責任さ、ここに極まれりという恐怖感を覚えるものであった。

▲今年の話材紹介は、副会長の玄野師の「いのちはいたたきもの」という話を布教資料として提供されたのを機縁に、命(みょう)と寿(じゆ)を取り上げた。いたたきます(合掌)といつて食事ができる家庭を増やそうではないかという特集である。

▲中村元東方学院長が平成十一年十月十日に享年八十六歳で死去された。仏教研究に多大な貢献、世界が認めた偉大な仏教研究者。わかりやすい解説文は、私達編集子にとっても大きな力である。心よりご冥福をお祈りしたい。

▲十月十四日には、二十九・二度の夏なみの温度を記録した。遅い秋、暑すぎる秋で金木犀の開花は十月十五日過ぎだった。ところが十月十七日には十度も気温が下がる。暑さ、寒さも彼岸までという慣用語が使えない地球温暖化の兆候の異常気象である。

事務日誌

- 11・3・18 弔電・都筑区妙蓮寺
- 11・4・4 祝電・鶴見区仏教会
- 11・4・5 祝電・金沢区並、保土ヶ谷旭区仏教会
- 11・4・5 呉慰霊堂(泉区)
- 11・5・1 総会案内状発送
- 11・5・16 理事会案内発送
- 11・5・18 三役会議
- 11・5・31 第26回総会
- 11・6・7 呉慰霊堂(瀬谷区)
- 11・6・17 第16回春の仏跡参拝(奥久慈・袋田の滝)
- 11・6・25 弔電・戸塚区西蓮寺
- 11・8・18 弔電・保土ヶ谷区
- 11・9・1 会報49号原稿依頼
- 11・9・20 会報49号第一回編集会議(於長昌寺)
- 11・10・5 呉慰霊堂(都筑区)
- 11・10・14 会報49号第二回編集会議(於東泉寺)
- 11・11・5 呉慰霊堂(緑青葉区)

大仙寺

れた。仏教研究に多大な貢献、世界が認めた偉大な仏教研究者。わかりやすい解説文は、私達編集子にとっても大きな力である。心よりご冥福をお祈りしたい。

▲十月十四日には、二十九・二度の夏なみの温度を記録した。遅い秋、暑すぎる秋で金木犀の開花は十月十五日過ぎだった。ところが十月十七日には十度も気温が下がる。暑さ、寒さも彼岸までという慣用語が使えない地球温暖化の兆候の異常気象である。

▲「日本のお寺仏教は衰退の道を歩み、百年もつ管がない。お寺は『風景』でしかない。いつまでも檀家制度に寄りかかり、宗教心も使命感もない『任職の相続』を続けるのか。経済的基盤を、いつまで戒名料や供養料、果ては事業に置くのか。いつまで難しい漢字を使っているのか。再生を願う」(大法輪十一月号掲載・弁護士・滝本太郎氏)「世紀の仏教を考える会」の僧侶らの調査の結果、葬儀費・戒名料に不満、高額かつ不明瞭の声が多かった。お寺のお布施収入源の葬儀法事が寺離れ、僧侶離れ、仏式離れの危機に直面している現実を痛切に感じて行動を起こさないと倒産消滅も時間の問題となる。時局対策委員会に期待が集まる訳である。葬儀業者との関わり方の目先の問題の解決も大事ではあるが、その奥を見据えている必要がある。

▲編集子の諸般の事情により、当号の発行が大変遅れて心よりお詫び申し上げます。どうかご寛恕を。